

2017年度外国人留学生入学試験「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験(芸術学科は小論文)		面接	専門試験 作品 利用
	狙い・意図	狙い・意図		
日本画	与えられたモチーフに対するデッサン力、表現力(構成・描写・色彩感覚)を求めた。		実技作品を踏まえ、制作意図を語らせるとともに、提出作品、小論文、多摩美術大学への志望理由を参考に、総合的に判断した。	●
油 画	植物を持って座っている女性モデルをモチーフとして出題した。デッサン力や絵具の扱い、構成力などの表現の基礎を総合的に見るのがねらいである。		制作意図、表現への取り組み方、留学の必然性、多摩美術大学油画科を選んだ理由、日本語によるコミュニケーション能力などについて総合的に判断した。	●
版 画	出題「ティッシュペーパー、赤いリボン」は、白い箱であるティッシュペーパーと赤いリボンをどう画面構成するか、まずポイントとなった。そして、それを表現する基礎的な描写力や造形力を備えているかというところに注目し、その上で柔軟で豊かな発想力や構成力を展開できているかを重視した。また、短い時間でも画面をつくり上げる完成度も求めた。		面接では、持参した作品を参考に、作品の説明、あるいはプレゼンテーションを含めて進めていった。今まで制作してきた大学での経験や「本学版画への志望動機」など、下記の内容をポイントとして面接試験をおこなった。 ・作品について、自分の意思を明確に述べられているか ・学業や制作に意欲はあるか ・日本語の理解力と回答の正確さ ・日本の大学を選んだ理由	×
彫 刻	「夢」の定義は大きく二つに分けられる。一つは自己の抱く将来や現実に対する希望や期待などの願望。もう一つは就寝時に見る夢だが、この試験ではそのどちらも選択したが、両者とも受験生個々の経験や記憶に深く根ざしたもので、一定の規範がない。つまり、何を描こうが自由ということとなる。しかし、その自由ほど困難なことはいないだろう。何故ならば、対象物を再現的に描くことは、一定の訓練によって鍛えられているが、相対的に断片的なイメージを再現するには、描写力とともに、イメージを形にする創造性、構成力、発想の柔軟性などが求められる。ここでは、基礎的な描写力を図るとともに、イメージを形にする創造性に富んだ強い意欲と新鮮な発想を試した。		・明確な志望動機を持っているか ・基本的な造形力を有しているか ・入学後、具体的な志望研究領域があるか ・将来的な望みがあるか ・立体造形に対する意欲と持続可能な資質を備えているか ・基本的なコミュニケーション能力があるか	●
工 芸	形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写力を確認する。また、包装された菓子をモチーフに出題した。日本語による設問を正しく理解してきているか、そして正確な観察と独自の且つ調和的な構成が美しくいていねいできているかを採点のポイントとした。		なぜ本学の工芸学科を選んだのか、そして何を学びたいのか。将来の展望などについて熱意と独創力のある答えを望む。 実技試験を経た感想を話してもらうことで、本人の制作についての考え方や取り組み方を再確認したい。 面接の受け答えと小論文において、本学での学業を達成するために必要な日本語の能力を確認する。	●
グラフィック デザイン	鉛筆デッサン ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の目的や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか		面接 ・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学志望理由が明確であるか ・自分の意見を述べられるか	×
プロダクト デザイン	・理解力=問題の把握、理解が適切か ・発想力=アイデアが優れているか ・独創性=他にないアイデアか ・実現力=アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力=アイデアが伝わる表現か		・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×
テキスタイル デザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な基礎的観察力と描写力、及び色彩表現力を問うた。また、包装された菓子をモチーフに出題した。日本語による設問を正しく理解しているかどうか、そして正確な観察と独自の且つ調和的な構成が美しくいていねいできているかを採点のポイントとした。		受験者の語学力(日本語)が本学でのごような授業に充分対応できるかどうか、見極めること。そして専門試験だけでは判断が及ばない部分として、表現力や造形力を有しているかどうかを伺うこと。さらには、テキスタイルデザインを学ぶための意志や志願の動機を説明できるかどうかを伺うことをねらいとして面接試験を実施した。	×
環境 デザイン	特別入試の空間デザインの試験は、空間を創造する構成力とデッサン力を見るもので、技術的に特別な練習を重ねないでできない出題ではない。出題条件に対して何を考え、どのような効果を意図したのか、そしてその意図がデッサンにしっかりと表現されているかが重要である。 与えられたハガキ大のダンボール紙とケント紙によって構成する立体作品は、それぞれの素材特性を理解した上で構成されているかがポイントとなる。作品の独創性もさることながら、与えられた素材を生かした構成となっていることが大切である。そして制作意図を伝える基礎的なデッサン力もみる。それらは分析力、観察力、その表現力によってよいだろう。完成した作品を通して、環境デザインに対する空間的な資質と、さらには制作意欲(熱意)が伝わってくることを期待される。		面接試験では最初に、空間デザイン試験で描かれたデッサンについて、どのようなことを考えたのか、画面に表れていないことも含めて、制作意図を端的に説明してもらおう。 その後、面接の大半は「多摩美術環境デザインを選んだ理由」「そこで学びたいと思っていること」「将来の目標」など、いくつかの質問を通して、空間的な資質と、制作意欲を感じられるかを判断する。その際は熱意と情熱をもって、状況に合わせた「自分の言葉」で話すことも大切なことだと考えている。 ※外国人留学生は入学後に必要な、日本語での会話力と理解力を有していることを求められる。	●
情報デザイン メディア芸術コース	出題文の意図するところを理解したうえで、構図や描写力といったデッサンの基本が習得できているかどうかを評価の基準とした。 加えて、設問内容を解釈したうえで希求力のある演出のための企画構成力が十分に発揮されているか、それが作品性の向上に効果的であるかどうかという点も着目した。		メディア芸術の分野に対する予備知識と、当コースのカリキュラム内容に対する理解力を確認するために、志望理由と将来への構想について質問した。 これまでの作品実績を確認して、本人のスキルや見識を測り、志望分野との適合性などを評価基準にした。また作品説明や質疑応答においての本人のプレゼンテーション能力も評価対象にした。	●
情報デザイン 情報デザインコース	手とモチーフ(目玉クリップ)の鉛筆デッサンを通じて下記の評価を行なった。 ・対象を見る観察力 ・基礎的な描画力 ・手やモチーフの質感などの表現力 ・手とモチーフによる構成力 ・モチーフを用いた構図の工夫 以上を通じて、観察して描くことに取り組んでもらうことが出題のねらいである。		面接のポイント ・プレゼンテーション力 ・日本語でのコミュニケーション能力 ・プレゼンテーションにおいて、作品の制作過程や制作意図を説明できるか ・入学後のビジョンを持っているか ・情報デザインを理解しているか	×
芸 術	日本語の習熟度だけでなく、思考力もみる。論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、語言は明確で説得力があるか、という点も判断基準となる。常識的にまとめた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待している。		外国人留学生の存在は他の学生にとっても大きな刺激となる。面接試験では、直接本人と会って日本語能力が適切であるか、芸術に関する最低限の基礎知識をもっているか、などを判定する。	×
統合デザイン	・理解力=問題の把握、理解が正しいか ・観察力=日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力=イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力=構図、形、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視 点=事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか		・入学志望理由が明確であるか ・本学科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力・語学力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか	×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	語学力/基礎運動能力/身体表現についての発想力、即興力、柔軟性、独創性/空間把握能力/コミュニケーション能力/集団創作力。上記の項目を、総合的に採点し、当学科当専攻の基準に達しているかを判断する。		本校、本学科の志望動機/実技試験の感想/演劇・ダンスの経験/入学してから力を入れたいこと/興味を持っている映画、演劇のジャンル/趣味・特技(楽器演奏、スポーツ等)を題材に対話しながら、日本語によるコミュニケーション能力や表現者として成長するために必要な創作意欲、感受性、発想力を有しているかを判断する。落ち着いた質問の内容をよく把握して回答すること。	●
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザイン コース	鉛筆デッサンは、5種類の質感の異なるモチーフを与えた。それらを想定で組み上げることによって空間構成力、モチーフの異なる質感を描き分ける観察力と表現力、光をどう陰影を劇的に描写できる感性があるかを探る。舞台美術はプロセシムを、映像美術はフレームワークを意識して美術設計を行う。日頃からそのような感覚で空間と対象を見る目を持つことが重要である。また、常に光を意識し独創的でドラマティックな発想をすることが必要である。想定デッサンとなっているのは、モチーフを自由に構成し、情景をも創造してほしいということである。		・授業を理解できる日本語会話能力・理解能力を有しているか ・学科の特色を理解しているか ・志望動機が明確か ・協調性があるか ・授業への熱意と適応力があるか ・作品の説明が的確であるか	●

全学科共通小論文

(1) 題:「わが祖国」という題で、800字程度の文章を書きなさい。

(2) 出題意図: 受験生の「視座」を見る。
・自身の「祖国」の文化や風土、自然をイメージできるか?(想像力)
・他の文化や風土、自然との違いを意識しているか?(客観性)
・自らの具体的な体験や知識に基づいた内容か?(独自性)(3) 評価基準: 受験生の「日本語力」を測る。
・出題意図を理解した内容か?(理解力)
・内容を整理し記述しているか?(構文力)
・伝えたいことを表現できる日本語力があるか?(日本語力)